令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【谷田小学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>国語「既習した漢字」及び「主語と述語の関係」、算数「単位量」について平均正答率が低い。<指導上の課題>児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。また、児童が自ら振り返る時間を確保できていない。	⇒	授業の際にはこの単元を重視するとともに、パワーアップタイムや授業で「ドリルパーク」等を活用し、漢字や計算等の基礎基本の反復に取り組む。【週に1度の実施】 授業中に児童自らがスクールダッシュボード等を活用して振り返り、次の学び生かせるようにする。【毎授業で実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題>全体的に「思考・判断・表現」の問題の平均正答率が低い。<指導上の課題>児童が自分の考えを表現する課程の時間を十分に確保できていない。	⇒	各教科で児童が自分の考えを表現できる場を設定し、グループなどで協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。【令和6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が92%以上】

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	国語の主語・述語の関係で課題が見られた。長文で主語と述語が複数ある場合、それぞれの関係性の理解が不十分であると考えられる。漢字の問題の正答率が低かった。熟語や部首の意味を考えず、音や形のイメージで理解していることが考えられる。算数のグラフの特徴を理解し、割合を読み取ることが苦手な児童が多い。0からではなく、途中から始まる項目の数値を読み取るのが間違えやすい傾向がある。
思考・判断・表現	国語の自分の考えが伝わるような表現の工夫に関する問題で、問題文の意味を浅く捉え、指示語が何を指すかを見落としている傾向があると考えられる。算数の図形の問題では、球の直径と立方体の辺が等しい関係性に気づけない、または立方体の体積の公式の意味の理解が不十分であると考えられる。

③ 中間期報告 / 中間期見直し

	中間期報告 評価(※)	中間期報告 授業改善策の達成状況	中間期見直し 授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	各教科の授業やパワーアップタイムで「ドリルパーク」等を活用し、漢字や計算等の基礎基本の反復に取り組むことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	国語や算数等で単元を精選し、児童が自分の考えを表現し、グループなどで協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるような場を設定することができた。	変更なし

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	国語では、「例の漢字と同じものを選ぶ」問題に課題がみられた。同領域の同集団経年比較において、昨年度の結果から横ばいかもしくは下回っている。同音異義語等.漢字一つひとつの意味を理解していないと考えられる。
思考・判断・表現	算数では、「データの活用」を柱とする領域の平均正答率が低く、同領域の異集団比較において、昨年度の結果を下回っている。二次元表やグラフの読み取り等に課題がみられる。統計的な問題解決活動を重視する必要がある。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価(※)	
知識・技能	B	授業の振り返りや作文を書く際に、主語と述語を意識して書くように様々な教科で取り組んだことにより、同集団比較において、昨年度の結果を上回った学年が増えた。ドリルパークやドリル等を活用し、漢字や計算等の反復練習が習慣化することができた。
思考・判断・表現	B	「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えていると思いますか。」との質問項目について、全学年で92%以上の肯定的な回答が得られ、取り組んだ成果が表れている。

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	基礎・基本的な知識・技能の定着を図れた。しかし、個人差が大きいことから個別支援を図る必要がある。国語の主語・述語の関係は徐々に改善がみられている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」への取り組みを引き続き実施し、令和7年度の全国学力・学習状況調査で引き続き改善状況を検証していく。
思考・判断・表現	「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えていると思いますか。」の質問では,肯定的な回答を得られたが、「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」の質問では課題がみられた。各教科で意見交流の場を引き続き設け、深い学びにつながるようにしていきたい。